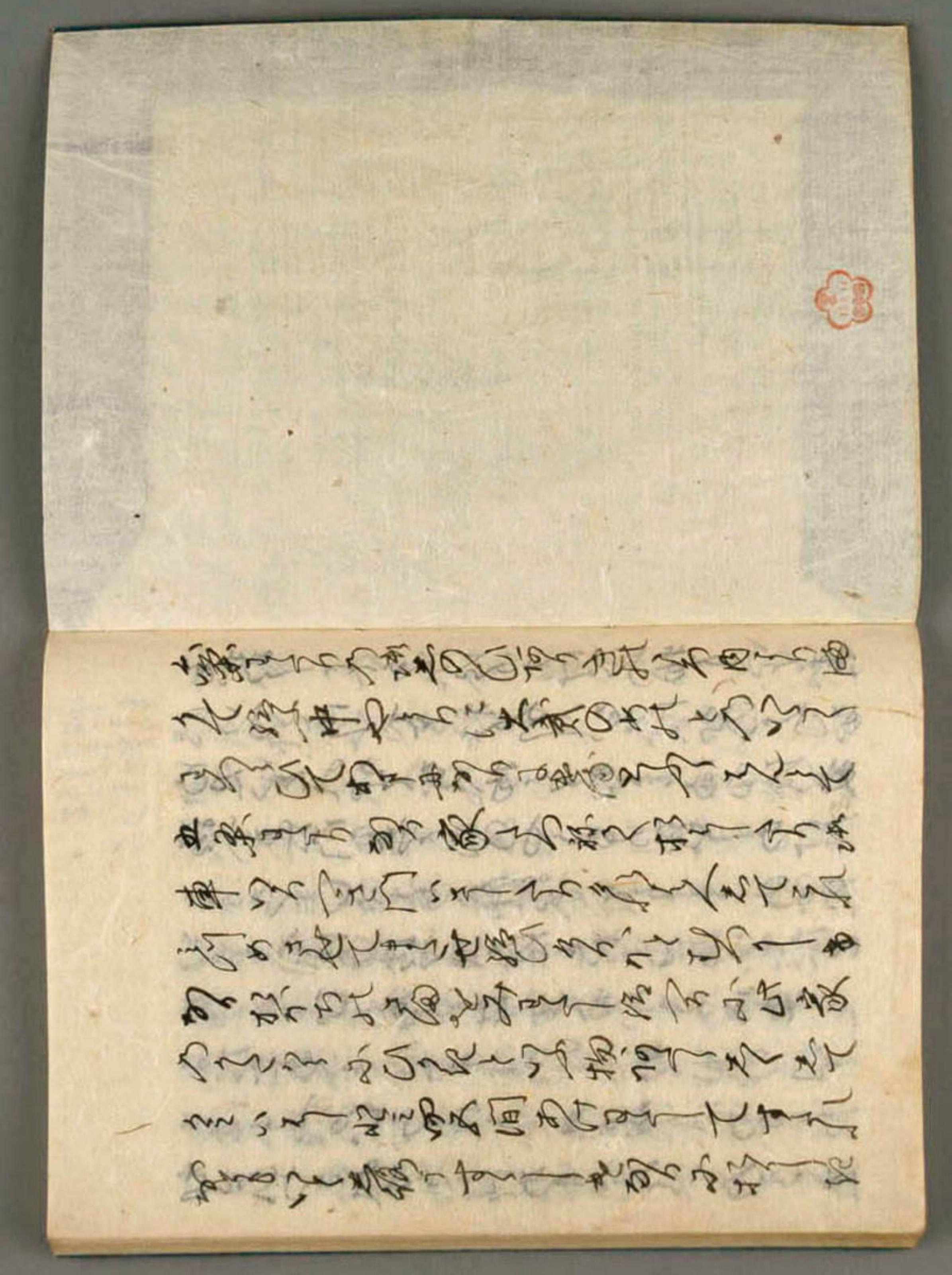
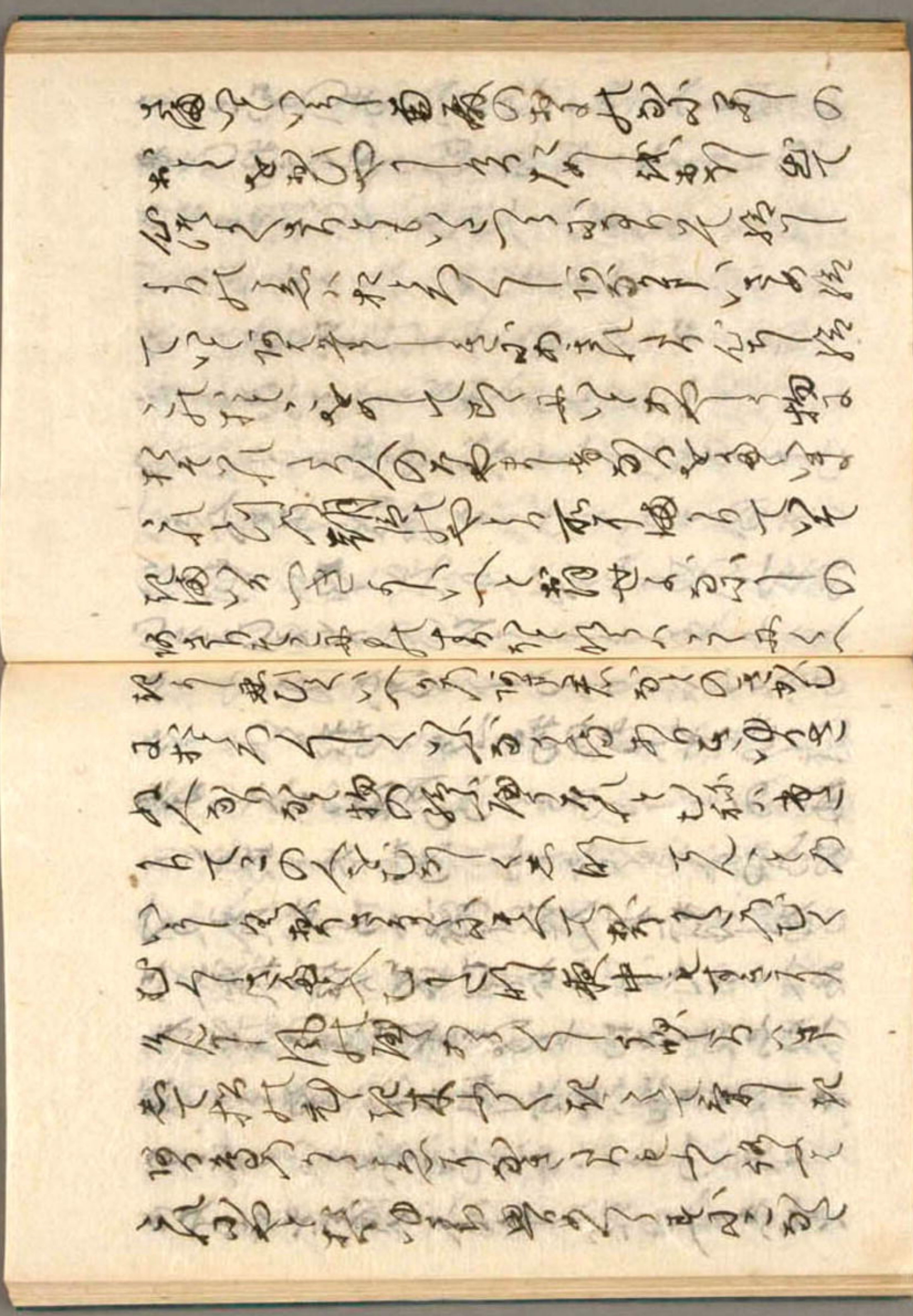
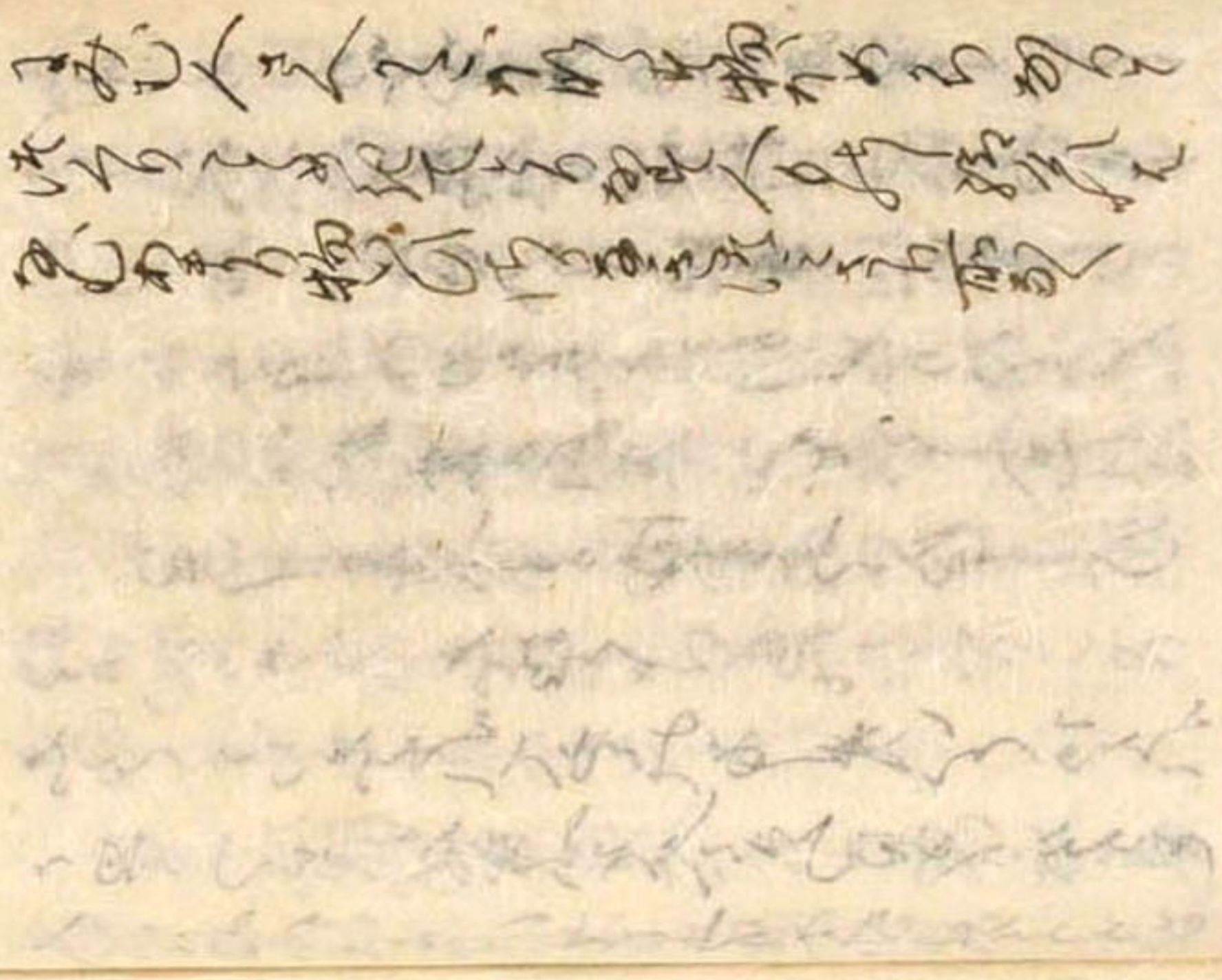
WA 7
(4)
263



帚木のまき
中川いへぬ
とも君まか
たゝぬことつ
きのやに

かう殿人は御車ひきかけて立給へり右近
えんかの心ちしてさし出たる事なと見え人
これは思ひてかゝりあれかいらしく声いめい
さてわかく宗にはこの御行り給へるにや
てぬかれくと物みゆかたと母御給ぬあり
かりそめ御とよばむふさらひさら御とも
小人をさすかはさらなりふ名んなるまさなる
ともつましきをきいはすそとのまた流
かうまつり物語りをしえさいりあれてさへ
此人めをへさまや

小人くは此くくまうりてめさかなりけるを
心よりかくにをこそなとくちをしくめ給御
かゆかと見え給ひてせ給へれとかつく御
御かるひさらなのとも中ころあらぬ御接待よ給き
中川とちさぬ給わかるの事所ほとく
御かと母おき給くかうしてつるあけ給ふ
いといさくわきて人めもかくはかくと見ん
まきされてこうしてと海く物かたり
さらに紀草木なといふみ又あなるくる
嫌のおもらえ池をみくさふかわれ



[illegible]